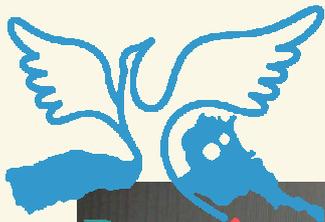


中海エコ活動レポート

宍道湖・中海ラムサール条約シンボルマーク



ラムサール条約湿地登録5周年！



中海と宍道湖は、平成17年11月にラムサール条約湿地に登録された国際的に重要な湿地です。

この両湖を誇りに思い、その恵みを大切に守り、次の世代の人たちに引き継いでいくため、登録5周年の節目に「次世代へつなぐ！豊かな中海・宍道湖」をテーマに、環境保全や賢明な利用（ワイズユース）の啓発、交流・学習を行いました。



■ ラムサール条約湿地登録

5周年記念事業

■ 中海の環境を五感でチェック！

展示会「中海・宍道湖を知る、学ぶ展」

平成22年10月2日(土)～10月9日(土)に、く にびきメッセ(松江市)において、「中海・宍道湖を知る、学ぶ展」を開催しました。

中海・宍道湖の「形成過程と歴史」の紹介や「両湖に生息する生き物の水槽展示」、両湖周辺の「懐かしの写真」などの展示を行い、6,300人余り(9/29～10/1の学習見学会を含む)の方々にご来場いただきました。

＜湖の成り立ちや歴史の展示＞

両湖周辺には昔から人々が暮らし、現在と同じようにヤマトシジミやスズキ、ボラなどの水産物を漁獲したり、海草(海藻)を肥料として使うなど、湖の恵みを受けてきました。



＜なつかしの写真の展示＞

水辺の町並み、水上飛行機などなど・・・地元の方々のご協力等によりなつかしい写真をたくさん展示しました。



＜生き物たちの展示＞

両湖とその周辺には、水鳥、魚や貝類、昆虫などの多くの生き物をはぐくむ多様な生態系があります。生き物たちは互に関わり合って生きているんですね。もちろん私たちの暮らしもつながっており、共に生きているのです。



＜NPO等の活動の展示＞

環境保全やワイズユースに関わる取組を紹介しました。地域住民の方々が主役となった活動も広がってきています。



いろいろな展示を通じて、中海・宍道湖のことを知り・学び、親しみを持っていただけるよい機会になったのではないのでしょうか。



こども国際交流 ～みんなで守るぞ、湿地の宝～

10月9日(土)、中海・宍道湖周辺に住む鳥取・島根両県の子どもたち(米子水鳥公園子どもラムサールクラブ、ゴビウスKODOMOラムサール探偵団の40名)と韓国の子どもたち(慶尚南道 ウーポ沼等の6名)が米子水鳥公園に集まり、両国の湿地を通して意見交換・交流を深めました。

＜中海でゴズを釣って食べたよ＞

午前は「ゴズ釣り体験」をしました。あいにくの小雨の中、釣れるかな? とちょっと心配でしたが、たくさんのゴズ(マハゼ)が釣れました。セイゴ(スズキの子ども)を釣った子もいました。

お昼には釣ったゴズを天ぷらや唐揚げにして、中海の恵みを味わいました。

たくさん釣れたよ

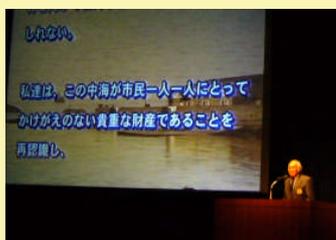


シンポジウム「次世代へつなぐ豊かな恵み」

～5年の節目、決意を新たに～

10月30日(土)に米子市文化ホールで開いたシンポジウムでは、NPOの活動報告や講演、地球環境保護をテーマにしたミュージカル「愛と地球と競売人」の上演などを行い、登録5周年の節目に「中海・宍道湖の恵みをみんなで守り育て、次世代へつなぐんだ」という決意を新たにしました。

＜地域NPOの活動報告＞



中海で体験クルージングやアダプトプログラムに取り組むNPO中海再生プロジェクト内藤理事長は「最近はおみはかなり減り、水質も良くなってきた。多くの方に実際に中海を見たり、清掃活動に参加していただき、泳げる中海を目指して一緒にがんばりましょう！」とメッセージを送りました。また、NPO斐伊川流域環境ネットワーク飯田副理事長から、水質浄化に寄与し生き物のすみかにもなる宍道湖のヨシ原復元の活動を報告していただきました。

＜講演「水鳥に学ぶ、いのちのつながり」＞

(財)日本野鳥の会主任研究員安西英明さんから、生物多様性(いのちのさまざまとつながり)についてご講演いただきました。



安西講師は「私たちが食べている米は、稲という植物のいのち。太陽の光だけで育ったわけではなく、田んぼにはトンボやカエルがいて、カエルを狙ってサギも飛んできたかもしれない。ツバメも飛んできて東南アジアとつながりがあり、冬の田んぼにはロシアからコハクチョウが飛んできたかもしれない」と例を挙げ、「日々の生活の中でもいろいろないのちに囲まれていることに思いをはせ、『いのちのさまざまとつながりの中に私たちも生きている』ことを感じ・考えてほしい」とお話しされたことが印象的でした。

＜トークショー「一人ひとりができること」＞

NHK連続テレビ小説「だんだん」で宍道湖のシジミ漁師役を演じた俳優吉田栄作さんと米子市出身の女優松本若菜さんを招いてのトークショー。

吉田さんは「宍道湖の夕日は世界の中でもすばらしい夕日のひとつ。松江の町は水と共存していてとてもよいところ」、松本さんは「小学生の頃にゴズ釣りしたのが中海の思い出。身近すぎて気づかなかったが、東京に出てからは鳥取に帰るたびに豊かな自然を発見できるのがうれしい」と宍道湖への思いを語りました。そして、宍道湖の自然を守るために一人ひとりができることとして「家族で話をすることも一つのスタート。清掃活動への参加など小さなことに取り組むことが大切」と強調しました。



＜未来の中海・宍道湖へのメッセージ＞

展示会来場者から寄せられたメッセージ1,162点の中から、次世代を担う子どもたちが選び、未来へのメッセージとして発表しました。

「鳥や魚がいっぱいいて長生きできるような環境になってほしい！」
「私たちがもっと協力して、昔のように湖で遊び、食に恵まれる日が戻ってくることを願っています！」



♪♪小さくても、どんなに小さくても、心を合わせ、明日を信じ始めよう・・・♪ (ミュージカル「愛と地球と競売人」より)

＜湿地の宝さがし＞

午後は「湿地の宝は何か？」をテーマに話し合い、その中から最も大切だと思う5つの宝を選びました。子ども達を選んだのは・・・シジミ(おいしくて、水をきれいにしてくれるから)、米子水鳥公園(たくさん水鳥がすんでいるから)、夕日(とてもきれいでみんなが感動するから)、渡り鳥(いろんな場所やいろんな国の湿地をつないでくれるから)、水(水がないと湿地は始まらないから)の5つでした。

最後に、みんなで決めた湿地の宝を絵に描いて作ったタペストリーを前にして、「湿地の宝をみんなで守るぞ、エイ・エイ・オー！」と誓ったかけ声がとても頼もしかったです。

自分たち以外の場所、他の国でも湿地を大切にしている仲間がいることを知り、とてもよい経験になりました。

この交流の様子はシンポジウムで子どもたちが報告してくれました。



いろいろな意見が出て盛り上がった



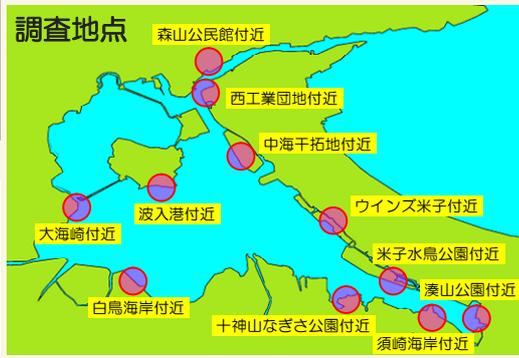
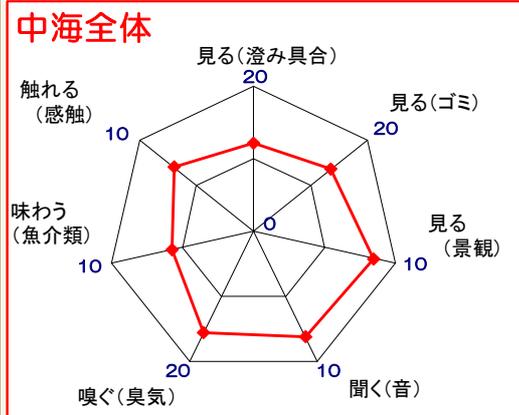
湿地の宝をみんなで守るぞ！

県民の方の参加により実施している「湖沼環境モニター」については前号で紹介しました。今回は、平成21年10月から平成22年9月までの1年間の調査結果がまとまりましたので報告します。

ランクB「やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感じられる」

中海の調査地点全体の平均点は70.5点、前年に比べてプラス2.1点という結果でした。

五感	観察項目	選 択 肢	判断対象の例	点数
見	湖水の 澄み具合	澄んでいる (20点)	水の透 明感、色、アオコ、赤 潮など	12.2 点
		少しにごっている (10点)		
		にごっている (0点)		
	ゴ ミ	ほとんどない (20点)	水面や湖岸に見あたるゴミなど	13.6 点
		少しある (10点)		
		たくさんある (0点)		
景 観	美しい・心がなごむ・風情がある (10点)	周囲の山並みや建物、朝日・夕日などの風景	8.4 点	
	特に感じることはない (5点)			
	殺風景・見通しが悪い (0点)			
聞 く	音	こころよく感じる音・静かで落ち着く (10点)	鳥の鳴き声、さざ波の音、船 舶の音、車の音、工場 の音など	8.1 点
		特に気に入らない音 (5点)		
		うるさく感じる音 (0点)		
嗅 く	臭 気	こころよい香り・臭いはない (20点)	潮の香り、木や草花の香り、排気ガスの臭い、煙 の臭い、ヘドロ臭 など	15.5 点
		特に気に入らない臭い (10点)		
		くさく感じる (0点)		
味 わ う	魚介類	食べてみたい (10点)	中海でとれる魚介類	5.7 点
		どちらでもない (5点)		
		食べてみたいと思わない (0点)		
触 れ る	湖水の 感 触	触ってみたい (10点)	手や足を湖水につけてみたいかどうか	7.0 点
		触ることに少し抵抗がある (5点)		
		触りたくない (0点)		



■五感による湖沼環境ランク表

合計点数	ランク	評価内容
80点以上	A	おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる。
50点～79点	B	やや気になる面があるが、ますます良好な環境であると感じられる。
49点以下	C	快適さに欠け、親しみにくい環境にあると感じられる。

合計
70.5
(Bランク)
点

最高点は「十神山なぎさ公園付近」

11地点中唯一ランクA「おおむね良好で親しみやすい環境にあると感じられる」に相当する89.2点でした！



あなたはどのように感じていますか？

下の写真はいずれも湖沼環境モニターの調査地点付近です。水辺に出かけて五感で感じ、あなたの好きな中海を見つけてみませんか。



NEWS 島根県の「湖沼環境モニター」事業が全国知事会の優秀政策に選ばれました。住民参加型で分かりやすい指標を用いて行う先進的な取組が評価されました。

イベント・活動の情報について

中海の環境活動のイベントを、次のホームページ（中海エコ活動イベント情報）に掲載しています。
ホームページアドレス <http://db.pref.tottori.jp/NEAI.nsf>

編集・発行者
島根県西部総合事務所
生活環境局環境・循環推進課
島根県米子市鞆町一丁目160
電話 (0859)31-9350
E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

島根県環境生活部環境政策課
島根県松江市殿町1番地
電話 (0852)22-5562
E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp
Homepage: <http://www.pref.shimane.lg.jp/kankyo/>

記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。